同期会のハシゴ

児玉　寛嗣

３月末、小学校の同級生のＳ君から連絡が入った。５月にクラス会をやるが出ないか、都合のよい日を教えてくれ、とのことであった。同じ頃、高校の同期会の案内が送られてきた。これも５月。高校の同期会前日の金曜に小学校のほうを設定してもらった。両親が鬼籍に入り住む者もない九州の実家は手放し、故郷とは疎遠になっている。久しぶりの墓参を済ませて臨んだ。

小学校のクラス会にはＧ先生、男子３人、女子４人の８人が集まった。我々の世代はベビーブームで先生が不足しており、短大出で教員になれたそうだ。先生も卒業してすぐ４年の我々のクラスを担当した。従って、11 才しか違わない。お元気でどちらが先生かわからないくらいだ。当時、おとなしかったＫさん、話題の中心になって盛り上げる。性格が変わったかのようだ。訊いてみると高校で女子ソフトボール部に入り、その後、実業団で活躍、国際大会にも何度か出たそうだ。指導者となり上野選手も教えたとのことだ。なにかのきっかけで人は大きく変るものだと思った。

翌日は高校の同期会。生徒数は約 600 名で 11 クラスあった。参加者は 127 名。判明している物故者は 72 名とのことだ。会は黙とうから始まった。クラス毎に丸テーブルを囲んで座る。我々、2 組は 7 名と少ないが 9 組は 23 人と突出して多い。隣に座ったＭ君が「白川効果だ」と言った。参加者名簿を見ると元日銀総裁の白川君の名前がある。彼は文系のクラスだったので面識はなかった。やはり、彼の周りは人が絶えない。なかにはちゃっかりツーショットを撮る者もいる。まるで芸能人扱いだ。男子には杖をついた者や足元が危うくなり車椅子を借りた者もいたが、女子は皆、着飾り若々しくて元気だ。フランス人と結婚した元スッチーはパリから駆け付けた。

欠席者のメッセージを見ると「衰えを感じながら暮らしています」などと健康に不安を抱える人も多いようだ。健康を維持して呼びかけがあれば、また参加したいものだ。